

事例3 中学校における創作分野（旋律創作）の導入事例

○学年 第1学年

○領域・分野 A表現(3)創作ア、イ(ア)、ウ

○事例のポイント

- ①生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は、【リズム、旋律】である。
- ②中学校における創作分野の効果的な導入を展開する。
- ③音楽的な見方・考え方を働かせながら、思いや意図をもって旋律をつくる。
- ④主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点をもって創作の導入の例示をする。
- ⑤ICT端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。

1 題材名 表現したいイメージをもち旋律を創作しよう（4時間扱い）

2 題材について

(1) 生徒の実態

創作分野の学習についての実態を把握するために、本校の第1学年の生徒を対象に質問紙調査を実施した。その結果、「小学校での音楽づくりの授業は好きか」という質問に対しては、全体の55%の生徒が「好き（どちらかというとき好き）」と答えた。その理由として「友達と一緒に色々な楽器を使って音楽を作ることが面白い」「音楽を自由につくれるのが楽しい」などの回答があった。一方、45%の生徒は「音楽づくりの授業が嫌い（どちらかというとき嫌い）」と答えた。その理由として「どのように作ってよいか分からない」「楽譜に書くのが難しい」などの意見が見られた。また、「楽譜が読めるか。」という質問に対しては、生徒の34%が「読める（時間がかかるが読める）。」と答えた。反対に66%の生徒が「読めない。」と答えたが、そのうちの85%の生徒が「読めるようになりたい。」と答えた。

さらに、「楽譜が書けるか。」という質問に対しては、全体の20%の生徒が「かける（時間がかかるが書ける）。」と答えたが、「あまり書く機会がないのでよく分からない。」と答えた生徒も多くいた。

(2) 題材について

本題材は、第1学年の創作分野の導入として実施する。楽譜の読み方・書き方や自己のイメージと音楽を形づくっている要素を関わらせながら旋律をつくることを通して、資質・能力を育成できるよう展開していく。創作分野の系統性を考えて言えば、中学校3年間の創作の導入として、生徒一人一人が楽しく、表現したい旋律を工夫してつくることを通して達成感を味わわせていく。そして、生徒たちに創作に対しての苦手意識や不安感を感じさせないようにさせていく。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材は、学習指導要領A表現(3)創作ア、イ(ア)、ウ、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素として「リズム」「旋律」を指導するものとする。

3 題材の目標

- (1) 音のつながり方の特徴について表現したいイメージと関わらながら理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。 <知識及び技能>
- (2) リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。 <思考力、判断力、表現力等>
- (3) リズム、旋律によって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。 <学びに向かう力、人間性等>

4 教材について

(1) C→G→C (I→V→I) のコード進行による音楽

「起立・礼・着席」の挨拶のように、生徒の生活の中での身近にある音楽との関連を重視するためにも、創作アの導入の段階でこのC→G→Cのコード進行に合わせて旋律をつくることから始める。なお、小学校段階でI・IV・Vの和音については学習しているので、小学校との連携という点においても、中学校の最初で取り扱うことは意味のある学習となる。

＜本題材における旋律創作に係る課題や条件について＞

本題材では、32鍵盤のキーボード（鍵盤ハーモニカ）を用いて、C→F→G→Cのコード進行に合わせて4小節の旋律をつくる。順次進行・跳躍進行などの音のつながり方に関する音楽的な特徴から生み出される特質や雰囲気を感じ取り、表現したいイメージと関わらせながら旋律をつくる。なお、作品を記録する方法として、五線譜に記譜をしながら旋律をつくるとともに、オンライン楽譜作成ソフトウェアにも記録する。（後述）

(2) ICT環境（生徒用 1人1台学習用端末）

本題材では1人1台学習用端末を用いて、オンライン楽譜作成ソフトウェアを使用する。オンライン上でつくった旋律を共有し、生徒同士で作品を聴きあったり、教師から生徒の一人一人の作品に対してのフィードバックができるようにする。

＜教師から生徒の作品についての、フィードバック例＞

教師
約2時間前
3小節目を四分音符や跳躍進行を使ったのはどうしてかな？

教師
約2時間前
1、2小節目が八分音符で順次進行だったので、3小節目は一つ一つの音をはっきりさせて四分音符を使いました。また3小節目は曲の山場を意識して跳躍進行で盛り上げました。

教師
約2時間前
跳躍進行で一番高い音に上がることで、よく曲の山場を表現できているね！

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	創作ア	創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること
	創作イ(ア)	音のつながり方の特徴を表したいイメージと関わらせながら理解すること
	創作ウ	創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること
〔共通事項〕	ア	リズム、旋律
	イ	拍、拍子、音階
具体的な学習活動		・コード進行を基に自己のイメージをもち、リズムや音のつながり方を試行錯誤しながら工夫して旋律をつくる。

6 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>知 音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。</p>	<p>思 リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 リズム、旋律によって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>
1時			
2時	知 観察・記述		
3時			
4時	技 観察・記述	思 観察・記述	態 観察・記述

実践事例として活用しやすいよう、「事例のポイント」を記載しているが、本来は評価項目となる箇所である。
(P111 評価資料を参照)

7 指導と評価の計画 (全4時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 T:具体的な発問	○指導上の留意点	事例のポイント ◎留意事項
1次	◆リズム、旋律によって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心をもち。		
1	<p>○リズム、旋律によって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心をもち。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音符や休符、拍や拍子について確認し理解する。 ・拍子に合わせて、様々な音を組み合わせるリズム創作をする。 <p>○C→G→C (I→V→I) のコード進行を確認し、コード進行に合わせて構成音のみを使用して旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の開始時と終了時の「起立・礼・着席」のピアノの合図のC→G→Cをキーボードで演奏する。 ・C→G→Cのコード進行に合わせて、それぞれの音を考え、旋律をつくる。 	<p>○全音(休)符、二分音(休)符、四分音(休)符、八分音(休)符、十六分音(休)等の音の長さ(音価)と記譜の仕方などの小学校の復習を行い、生徒の実態を把握する。</p> <p>○音の長さ(音価)が異なると、どのような感じになるかを確認し、リズム創作につなげる。</p> <p>○授業の開始時と終了時のピアノの弾き方について、キーボードを使って確認できるようにする</p> <p>○それぞれのコードの構成音に含まれている音を使えばよいことに気付くことができるようにする。</p>	<p>ポイント②</p> <p>◎小学校の音楽づくりの学習を振り返り、中学校での創作分野の学習のイメージをもてるようにする。</p> <p>ポイント③</p> <p>◎普段の授業の開始と終了時のコード進行を基に旋律をつくることで、生活の中の音楽との関連を感じ取り親しむをもってつくることのできるようにする。</p>

<p>・試行錯誤しながらリズムを自由に考え、五線譜に書きながら旋律をつくる。</p>	<p>○キーボードで音を確認しながらコードの構成音だけでつくれるようにする。 ○リズムをどのようにしたらよいか分からない生徒には、リズム創作でつくったリズムなども参考にさせる。</p>	
--	--	--

2次◆音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解する

<p>2 ○順次進行・跳躍進行の音のつながり方の特徴を理解する。 ・コードの構成音以外の音を使うには、どのようにすればよいかを考える。 ・順次進行と跳躍進行について、それぞれの特徴とどのような感じがするかを考える。 T：順次進行と跳躍進行によって、旋律が上行したり下行したりすることをどのように感じますか。</p>	<p>○前時でつくったC→G→Cのコードの構成音のみの旋律で試しながら確認できるようにする。 ○順次進行と跳躍進行の旋律をピアノで演奏し、それぞれの音のつながり方の特徴を知覚・感受できるようにする。 ○音のつながり方の特徴によって旋律の雰囲気や感じが変わることに気付くことができるようにする。</p>	<p>ポイント③ ◎西洋音楽の捉えでは、音のつながり方は、順次進行と跳躍進行の2種類しかなく、それらの特徴を生かして、身の回りの音や音楽に生かされていることなどにも気付くことができるようにする。</p>
---	--	---

<生徒の意見等をまとめた板書例>

進行の種類	順次進行	跳躍進行
旋律の特徴	隣の音につながる	隣の音以外につながる
どのような感じ 旋律の感じ	<ul style="list-style-type: none"> ・なめらか ・ゆったりと流れる ・おだやか ・安心感 ・落ち着く ・やすらぎ 【上行形】 ・気持ちが高ぶる ・だんだんと盛り上がる 【下行形】 ・落ち着いていく ・だんだんと終わりに向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気 ・弾んだ感じ ・あざやか ・緊張感 ・音楽の流れが変わる ・ダイナミック ・一音一音はっきり 【上行形】 ・いきなり始まる ・期待感 ・ウキウキする ・希望に向かう 【下行形】 ・勢いよく一気に終わる ・テンションが一気に下がる

3次◆リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。

<p>3 本時 ○創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。 ・C→F→G→Cのコード進行に合わせて、コード進行の特徴を生かしながら、工夫して旋律をつくる。</p>	<p>○生徒の実態に応じて、適切なく課題と条件>を設定し、旋律づくりの例を提示するなどして、生徒が見通しをもって取り組むことができるようにする。</p>	<p>ポイント④ ◎「主体的・対話的で深い学び」の視点を持ち、見通しをもって学習に取り組めるように工夫して進める。</p>
---	---	---

	<p><課題と条件></p> <p>① 1小節目のリズムを2小節目で反復し、3小節目でリズムを変化させて旋律をつくること。</p> <p>② 順次進行と跳躍進行の音楽的な特徴を生かし、音のつながり方を工夫してつくること。</p> <p>③ 実際に弾きながら、様々な音のつながり方を試し、確かめながらつくること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己のイメージと音のつながり方やリズムの特徴を関わらせどのように旋律をつくるかについて試行錯誤しながら旋律をつくる。 ・ ICT端末を使用して、つくった作品をオンライン楽譜作成ソフトウェアに打ち込み、いつでも音を再生できるようにする。 ・ 4人グループになり、お互いにつくった音楽を発表し合い、気付いたことをアドバイスし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コード進行を確認しながら、キーボードで弾き、試行錯誤して旋律がつくれるようにする。 ○考えたリズムを試行錯誤しながら反復・変化させ、音の高さや音のつながり方と関連させながらつくれるようにする。 ○コード進行から感じ取るイメージや、反復・変化しながら音のつながり方を様々に試す過程で、「このような旋律にしたい」という思いや意図がもてるようにする。 ○自己のイメージと音のつながり方やリズムの特徴を関わらせ、どのように旋律をつくるかについて、グループ内の生徒の思いや意図を意見交換できるようにする。 ○楽譜を見ながら作品を聴き、それぞれの生徒の思いや意図と音楽的な特徴とを関連させて考えながら鑑賞させるようにする。 ○教師は一人一人の作品の進行度を踏まえ、オンライン楽譜作成ソフトウェア上のアノテーション機能を用いてフィードバックを行うようにする。 	<p>ポイント⑤</p> <p>◎オンライン楽譜作成ソフトウェアを使用し、形成的評価ができるようにする。</p>
<p>4次◆創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表す。</p>			
<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○表したいイメージと関わらせながら創作表現を創意工夫する学習活動に関心を持ち、これまでの学習の集大成としてつくった作品を互いに聴き合う。 ・ 自己のイメージとリズム、旋律を関わらせながら、仲間の作品について感じ取ったことを踏まえ、工夫して旋律をつくり、旋律を完成させる。 ・ 完成した作品をオンライン楽譜作成ソフトウェアに打ち込み、いつでも音を再生できるようにする。 ・ クラス全体で発表会を行い、それぞれの作品のよさについて意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前回の授業で出された意見やアドバイス、分かったことを生かして思いや意図をもち、工夫して旋律をつくることができるようにする。 ○自分でつくった作品について自己のイメージと音楽的な工夫とを結びつけて発表できるようにする。 ○スクリーンに投影し、つくった音楽を全員で聴き合う活動を通して、自らが創意工夫してつくりあげた作品に愛着をもたせたりするなどして、創作活動の成就感や達成感を味わわせるようにする。 	<p>ポイント⑤</p> <p>◎ICTの活用による個別最適な学びと協働的な学びの実現</p> <p>ポイント⑤</p> <p>◎オンライン楽譜作成ソフトウェアを使用し、互いの作品を交互に鑑賞したり、意見交換をしたりできるようにする。</p>

<p>○題材の振り返りをする。 ・「人は、なぜ作曲するのか」などを考え、題材で学習したことの振り返りをする。</p>	<p>○一人一人の世界に一つしかない作品のよさを認め、題材のまとめをする。</p>	<p>ポイント③ ◎音楽的な見方・考え方を働かせる場面を題材の終末に設定し、学習したことと生徒の生活や社会との関連に気付くことができるようにする。</p>
<p>編 P88 指導計画作成の留意事項(5)</p>		
		<p>○旋律創作の学習を通して感じたことを自分なりにまとめ、題材を振り返ることができるようにする。</p>

8 本時の学習指導（3／4時）

(1) 目標 ※本時においては、記録に残す評価は実施しない。

リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図を
<思考力、判断力、表現力等>

(2) 展開

<p>○学習内容 ・学習活動 T：具体的な発問 S：具体的な生徒の姿</p>	<p>○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法 ※本時は、記録に残す評価は実施しない。</p>
<p>○創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p>	
<p>本時の目標 コード進行の特徴を生かして旋律の山場を工夫しよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ C→F→G→Cのコード進行に合わせて、コード進行の特徴を生かしながら、工夫して旋律をつくる。 ・ リズムが変化する3小節目、終わりに向かう4小節目をどのように旋律を工夫するか、前時までに学習したことを踏まえて試行錯誤し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。 T：曲の山場をどのようにするか、順次進行や跳躍進行の音楽的な特徴や、これまで学習したことを踏まえて考えましょう。 S：なめらかな旋律にしたいから順次進行を使いたいです。 S：3小節目からリズムを変化させて、跳躍進行で一番高い音になるように音楽を盛り上げたいな。 S：4小節目は終わった感じをだすために、リズムをどう工夫しようかな。 ・ ICT端末を使用して、つくった作品をオンライン楽譜作成ソフトウェアに打ち込み、いつでも音を再生できるようにする。 ・ 4人グループになり、お互いにつくった音楽を発表し合い、気付いたことをアドバイスし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○順次進行や跳躍進行の音楽的な特徴を生かして、曲の山場をどのようにするか考えるようにする。 ○自己のイメージと音のつながり方やリズムの特徴を関わらせ、どのように旋律をつくるかについて、グループ内の生徒の思いや意図について意見交換できるようにする。 ○楽譜を見ながら作品を聴き、それぞれの生徒の思いや意図と音楽的な特徴とを関連させて考えながら鑑賞させるようにする。

<ul style="list-style-type: none"> ・3～4小節目のリズムの変化や旋律全体の特質や雰囲気について話し合う。 ・つくった旋律を発表し、学級全体で作品についての意見を出し合う。その際に、オンライン楽譜作成ソフトウェアで作品を聴き合い、作品を共有できるようにする。 ・作品をつくった時の思いや意図と音楽的な特徴とを関連させてながら意見を出し合う。 <p>T：3小節目のリズムを四分音符や跳躍進行を使ったのはなぜですか。</p> <p>T：1、2小節目が八分音符で順次進行だったので、3小節目は一つ一つの音をはっきりさせて四分音符をつかって、さらに跳躍進行で盛り上げました。</p> <p>T：跳躍進行で一番高い音に上がることで、よく曲の山場を表現できていますね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教師は一人一人の作品の進行度合いを踏まえ、オンライン楽譜作成ソフトウェア上のアノテーション機能を用いてフィードバックを行うようにする。 ○記録に残す評価は実施しないが、適宜形成的な評価を行い、生徒一人一人の状況を把握しアドバイスを行うことが重要である。
--	--

9 ワークシート例（生徒の記述例）

本時の学習における「思考力、判断力、表現力等」の評価例

○ 主な学習活動

- ・課題と条件にあった旋律創作を行い、リズムや旋律の特徴について、表現したいイメージと関わらせながらどのように音楽をつくるかについて、思いや意図をワークシートに記述する。

○ 評価規準

リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。

○ 評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

<ワークシートの記述>

- ・表現したいイメージと音のつながり方との特徴を関連させながら、おおむね妥当な内容が書かれているか。

下記例の生徒は、自分でつくった旋律のリズムや順次進行、跳躍進行の工夫について、表現したいイメージと関わらせながら書いている。以上のことから「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

<ワークシートの記述例>

①<課題と条件>に従って旋律をつくろう。



②自分でつくった旋律について、<反復><変化><順次進行><跳躍進行>の言葉を使って説明しよう。

四分音符のリズムを反復させて3小節から八分音符でリズムを変化させました。なめらかにしたかったので3小節は順次進行をつかって、さいごは跳躍進行をつかって盛りあげました。

○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、自分でつくった旋律のリズムや順次進行、跳躍進行の工夫について、リズムを変化させることによって生じる曲想の変化や曲の山場をつくるために最高音を用いたなど、表現したいイメージと関わらせながら、具体的な根拠を示して書いている。以上のことから「十分満足できる」状況（A）と判断した。

<ワークシートの記述例>

①<課題と条件>に従って旋律をつくろう。

②自分でつくった旋律について、<反復><変化><順次進行><跳躍進行>の言葉を使って説明しよう。

全体的に流れるようななめらかな旋律にしたかったので、1・2小節は順次進行を使い、リズムを反復、変化させ少しずつもり上がるように音の高さも高くしました。3小節目で跳躍進行を使い、音の長短も変えて一番高い音につけて旋律が一気にもり上がるように工夫しました。4小節目は順次進行を使い、最後の音を2分音符でおわらせることで、落ちついた感じを表現したいと思い旋律を工夫しました。